

海外旅行をして、海外で暮らして、「なぜこの国では……?」と不思議に思ったこと、ありませんか? 編集部へ寄せられた、世界の噂の中から、「うんうん、これは気になる……」というものを調査報告します!!

文◎りんみゆき・原田慶子 コーディネーション◎ホリコミュニケーション イラスト◎佐藤ワカナ

今月の噂

## 香港のお葬式に参列すると、塩でなくキャンディーが配られるって本当?

香港に住んでいた時、現地のお葬式事情が日本と違うと聞いてびっくりしました。葬儀場の関係で1~2カ月は待たなければならない(その間遺体は冷凍される)や、塩ではなくてキャンディーが配られる? など。結局参列の機会はなかったので、実際のところどうなのかな? と思います。(guguさん)



From: 香港・ペルー 検証

確かに、香港のお葬式事情は日本のものとだいぶ異なる。香港では結婚式の色は赤、お葬式の色は白という習慣があるため参列する親族は全身白を着用し、縁起が悪いためお葬式が終わると捨てる。参列者はシャツやジーンズなどのカジュアルな格好だが、黒や紺など濃い色の洋服を着用。偶数は祝儀の数なので、香典は奇数金額にする。101ドルが一般的だが、香港ドルの100ドル札は赤い色をしているため、緑色の50ドル札やそれ以外の紙幣を入れることもある。香典返しは白い封筒に入っており、その中身はキャンディー、ティッシュ、1ドルコイン。悲しみを甘いもので和らげるという意味からキャンディー、涙を拭くティッシュ、そして奇数の1ドルコイン。これらは全て縁起が悪いため家に持って帰らず、キャンディーはその場で食べ、1ドルも葬儀場の近くのお店などですぐに使う。死後「あの世」で必要とされるお金や車などを持たせるために、葬儀場や火葬場にある焼却炉で、紙でできたお金や車、家や使用人、ペットなども焼く。また葬儀場や火葬場の数に限りがあるので時期によっては数週間待たされることもあり、その間遺体は安置所や霊安室などで冷凍保存される。ただし、それは時期によって異なる。香港政府食物環境衛生署によると、2012年1月現在ではそのような「待ち」の状況はないそうだ。(香港)

ペルーのお葬式事情も、日本のものとは大きく異なる。古来「人は死後もミイラとなって生き続ける」と考えられてきたペルーでは、死者と残された者との距離はとても近い。人々に担がれた棺は楽団や会葬者と共にゆっくりと街中を回り、郊外の墓地へと運ばれ土葬される。葬送のメロディーが死者の魂を天国へ導く。

都心では霊きゅう車が使われるが、中には荷台部分がガラス張りです外から棺が丸見えというタイプもある。「棺とはいえ、仏様を人目にさらすなんて」と日本人の目には奇異に映るが、ペルー人にとっては人が棺を担いでいる状態と同じ感覚なのかもしれない。

供花は白い花が多いが、真っ赤なバラやピンクのユリなども使われる。贈り手の気持ちや故人のイメージに合わせ、花を十字やハート型にアレンジすることも。細かいしきたりで縛るのではなく、哀悼の意を素直な形で表すことが許されるのは、死者が身近な存在だからだろう。供花を墓地に運ぶための専用車もあり、埋葬時にはここから花を引き抜いて故人に捧げる。

葬儀はスペイン伝来のカトリック式に準じているが、ペルー人にとって死は悲しみこそすれ、忌み嫌うものではない。死者は魂となって、家族と共に生き続けるのだ。(ペルー)



ロシアでは写真を撮る時笑わない? イギリス人女性は硬水のせいで足が太くなるって本当? などなど、気になって仕方がない世界の噂、外国人への疑問を募集しています。投稿は、P.32 のとじ込みはがきをお使いいただくか、スペースアルク「世界の噂大検証!」まで!

<http://www.alc.co.jp/clubaic/kaigai/uwasa/>